

truthout
March 24, 2023

バイデン、被災直後のシリアに爆弾をプレゼント

US Bombs Syria 2 Weeks After House Voted Against Withdrawing Troops

<https://truthout.org/articles/us-bombs-syria-2-weeks-after-house-voted-against-withdrawing-troops/>

By Jake Johnson

リード

米軍は 23 日、シリアへの空爆を行った。これは、バイデンが議会の承認なしに命じた空爆である

以下本文

米国は木曜日にシリアで空爆を開始した。国防総省は攻撃を認めると同時に、「イラン製」ドローンの攻撃で、「米国人契約社員」(雇兵のこと) 1 人が死亡し、5 人の軍人が負傷したことを受けてのものだと説明した。この爆撃はシリア北東部の米軍整備工場へのドローン攻撃に対応してものだった。米軍の対応は、下院がシリア撤退の超党派決議案を否決した 2 週間後に行われた。この決議案は、バイデン大統領に 180 日以内にすべてのアメリカ軍をシリアから撤退させることを要求するものだった。

現在シリアには、約 900 人の米軍と数百人の契約社員が駐留している。専門家によれば法的根拠は非常に疑わしい。

ロイド・オースティン米国防長官は以下のように説明した。

バイデン大統領の指示により、国防総省は米中央軍に対し、イランのイスラム革命防衛隊 (IRGC) に属するグループが使用する施設に対して、シリア東部で精密空爆を行うことを許可した。

空爆は、今日の攻撃だけでなく、IRGC をふくめたシリア連合軍に対する攻撃にも対応したものである

この空爆により、「親イラン派戦闘員」とされる少なくとも 8 人が死亡した。バイデン政権が米軍の駐留を維持し、シリアで軍事作戦を実施するための法的権限に関する質問が再び殺到した。

オースティン国防長官は法的根拠を唱えなかったが、米国の空爆は「米国の要員を保護し、防衛するためのものであり、憲法第 2 条に合致している」と述べた。

Vox の外交政策ライター、ジョナサン・ガイヤーは書いている。

私たちは間違いなく、シリアで戦争をしている。それなのに、アメリカの議員はそのことを議論していない。国民はほとんど知らない。これはブッシュが行ったイラク侵攻の最も重要な疑問である。それは同時に、最も議論されていない負の遺産である。それは無許可の永遠の戦争につながる問題だ。政府は憲法第 2 条に依拠して議会の承認なしに軍事作戦を遂行する。これは以前の政権でも行われていた。議会のメンバーは以前からこのやり口に警鐘を鳴らしてきた。

2021 年、米国による 2 回のシリア空爆の後、ピーター・デファジオ議員（オレゴン州選出）を中心とする 30 人以上の下院議員が、「議会承認なしに軍事作戦を行うことはできない」と警告した。

デファジオのほか、ナンシー・メイス（サウスカロライナ）、ジャマール・ボウマン（ニューヨーク州）は、政府に警告を与える共同書簡を送付した。議会は、米軍がシリアで「イランが支援する勢力」と戦うことを具体的に許可したことはない。

議会が 2002 年のイラク戦争中に策定された、いくつかの曖昧な法制度の廃止に動く中、リンゼー・グラハム上院議員（共和党）は、むしろ干渉を強化しようとする法案（グラハム修正）を提出した。

それは「イラクで活動するイラン民兵への攻撃」を許可するよう求めるものだった。しかしこの法案は 60 人の上院議員が反対することにより大敗した。

以上